

第2週金曜日

第5歌頌 (預言者イサイヤの歌句、イサイヤ26:9-19)

神よ、我が神^oは夜中より爾を慕ふ、蓋爾の誠は地に在りて光なり。地に居る者は義を学べ。不虔の者は恩を承くれども義を学ばず、直き者の地に居りて猶不義を行ひ、主の威厳を顧みざらん。

十四段に、

主よ、爾の手は高く挙げたり、然れども彼等は之を見ざりき、爾の民を悪む者は之を見て愧ぢん、火は爾の敵を嚙まん。主我が神よ、我等に平安を與へ給へ、蓋凡の事は爾我等に報いたり。主我が神よ、我等を獲よ、主よ、我等は爾の外に他の者を識らず、爾の名を唱ふ。彼等死して復活きず、滅びて復起きざらん。蓋爾は彼等を糺して之を滅し、彼等の記念を全く失はしめたり。主よ、彼等に艱難を加へ、地の驕れる者に艱難を加へよ。

八段に、

イルモス 4調 「ハリストスよ、不虔の者は爾の光榮を見ざらん」。

主よ、患難の時我等爾を尋ね、爾の懲罰の我等に及べる時靜に禱を為せり。

主宰よ、爾は甘じて十字架に擧げられて、敵を墜し給へり。求む、我甘じて逸樂に由りて淵に墜されし者を爾の慈憐を以て引き上げ給へ。

妊める婦の産に臨みて苦しみ、其痛に由りて號ぶが如く、主よ、我等は爾の前に是くの如くなりき。

十字架に伸べられて日を晦まし、全地を普く照ししイイススよ、我不當なる慾に靈の味まされたる者を照し給へ。

主よ、我等爾を畏るるに因りて妊みて苦勞し、爾の救の神を生みて、之を地に施せり。

ハリストスよ、我が思の浪を鎮めて、我に穩に齋の海を度りて、復活の港に至るを得しめ給へ。

我等主を頼みて亡びず、唯地上に居りて地を頼む者は亡びん。

生神女讃詞、我等淨めたる思を以て潔き童貞女、イアコフの榮たる者を尊みて、神聖なる行に飾られて、敬虔に彼を我が神の母として歌頌せん。

四段に、

イルモス 「ハリストスよ、夜より寤めて」 5調。

爾の死者は復活し、墓に在る者は起き、地に在る者は樂しまん。

ハリストスよ、爾は釘せられて我を滅亡より救ひ、脅を刺されて我に不死を賜へり。

我爾の言ひ難き仁慈を讚榮す、爾我を救はん爲に來りたればなり。』

蓋爾よりする露は彼等の為に醫治なり、地は其死者を出さん。

主よ、爾は十字架に爾の手を伸べて、無形のアマリクを殺して、爾の民を救ひ給へり。故に我等爾の權柄を歌ふ。

光榮は父と子と聖神に帰す

三者讃詞、我等は三位に於て唯一の神、唯一の實在なる元始、無原なる父と子と聖神とを歌頌せん。

今も何時も世々にアミン

生神女讃詞、至淨なる者よ、天の容るる能はざる主を爾は孕みて生み給へり。嗚呼驚くべ

く言ひ難き奇跡や、故に我等皆爾を歌ふ。

我等の神よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。

私の爲に十字架を忍び、醋を飲み、成れりと曰ひし主よ、我が齋の路を成りたる者と爲して、我を爾の復活を見るに勝ふる者と爲し給へ。

イルモス 「ハリストスよ、夜より寤めて爾に伏拝する者を憐れみて平安を賜へ。
蓋爾の誠は光なり、人を愛する主よ、此れ爾の諸僕の為に醫治なり。」

第5歌頌

ハリストスよ、夜より さめて、なんじに 伏拝する者を
あわれみて、平安をたまへ、けだし なんじの
いましめは ひかりなり、人を愛する 主よ、
これなんじの 諸僕のために いやし なり

【小連禱】（斎調で）

輔祭 我等復又安和にして主に禱らん、
輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、
輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人と
を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリス
トス神に委託せん、
司祭 蓋爾は我等の神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、

（詠）主憐めよ
（詠）主憐めよ
（詠）主爾に
（詠）「アミン」

第8歌頌（三少者の歌句、ダニイル3:57-88）

主の悉くの造物は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 主の諸天使と主の諸天は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 諸天の上に在る水と、主の萬軍は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 日と月と、天の星は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 雨と露と、諸の風は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

十四段に、

火と熱、寒と暑は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 露と霜、氷と嚴寒は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 霞と雪、夜と晝は主を崇め讃めよ彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 光と暗、電と雲は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 山と邱、地と地上の植物は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 諸の泉と、海と河、鯨と凡そ水に泳ぐ者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

八段に、

イルモス、「生神女の産は敬虔の少者を爐の中に守れり」。

天の諸の鳥と、野獣と、一切の家畜は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

爾は慈憐に因りて十字架に釘せられて、盜賊の爲に樂園を開き給へり。今我惡鬼の残忍に破られて、甚しく靈に傷つけられし者の爲に爾の仁愛を以て痛悔の門を開きて、我を醫し給へ。

人の諸子と、イスライリ民は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

我等齋にて肉体を照し、諸徳にて靈を肥し、貧しき者を飽かせて、盡きざる富を天に買ひて呼ばん、造物は主を歌ひて、世世に彼を讃め揚げよ。

主の司祭と、主の諸僕は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

至仁なる救世主よ、造物は爾が十字架に釘せらるるを見て、爾の苦しみに因りて動けり。故に我、爾に祈る、洪恩なる主よ、常に蛇の攻撃に動かさるる我が智慧を爾の望みの動かざる石に堅め給へ、

諸神と諸聖人の靈、諸義人と心の謙卑なる者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

(生神女讃詞) 閉されたる神の門、独り主のみ通りし者よ、我を神聖なる途に向はしめて、我が為に救いの門を開き給へ。神の恩寵を蒙れる童貞女よ、我爾人類の独りの轉達者に趨り附く。

イルモス「萬物の造成主」。

アナニヤ、アザリヤ、ミサイルは主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

至聖なる木、我がハリストスが其上に釘せられし者よ、我爾を歌ひて、万世に崇め讃めん。

主の諸使徒、預言者、致命者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

ハリストスよ、不法の者は爾をゴルゴファに十字架に釘して殺せり、然れども爾は生きて、我等を世世に救ひ給ふ。

我等主なる父と子と聖神^oとを崇め讃めん、

(聖三讃詞) 聖三者は、神妙に分れ、又惟一なる神として分離せずして止まる、我等彼を世世に崇め讃む。

今も何時も世世に、「アミン」。

(生神女讃詞) 至浄なる者よ、爾を歌ふ者の為に持りを奉りて、彼等が凡その誘惑及び災禍より救はれんことを求め給へ。

我等の神よ、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す。

主よ、爾の十字架の力にて我を堅めて、勇ましく齋の途を終ふるを得しめ給へ。

(詠) **我等主を讃め、崇め、伏し拝みて、世世に歌ひ讃めん。**

[イルモス] **萬物の造成主、諸天使の畏るる者を、人人よ歌ひて、萬世に讃め揚げよ。**

第8歌頌



我等 神をあがめ 讃め 伏しおがみて 世々にうたい 讃めん
ほ

萬物の造成者、諸天使の畏るるものを

人々 ようたいて、 萬世に 讃めあげよ

司祭 生神女光の母を讃歌を以て讃め揚げん。

(詠) [ヘルビムの歌]

第1句 我が心は主を崇め、我が^{たましい}靈は神我が救主を悦ぶ。

附唱 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

第1句



我が心は主を あがめ 我が靈は神我が救主を 喜こーぶ

附唱

ヘルビムより 尊とく セラフィムに並びなく さかえ 貞操を

破らずして神言を生みし 実の生神女たる 爾をあがめ 讃む

第2句 その婢の卑しきを願^{かえり}み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、
→附唱ヘルビムより尊く

第3句 権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、其の名は聖なり、其の憐れみは世々 彼を畏るる者に臨まん →附唱ヘルビムより尊く

第4句 其の肘の力を表して、心の驕れるものを散らし給へり、→附唱ヘルビムより尊く

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。 →附唱ヘルビムより尊く

第6句 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、アウラムと其の裔を世々に憐れむ事を記憶し給へり、 →附唱ヘルビムより尊く

第9歌頌

祝讃せらるる哉主、イズライリの神、蓋其民を眷みて之に購を為し、我等の為に救の角を其僕ダビドの家に興せり、古世より其聖なる預言者の口を以て言ひしが如し、即

我等を我が諸敵及び凡そ我等を悪む者の手より救ひ、以て矜恤^{あわれみ}を我が先祖に施し、
八段に、
イルモス「童貞女よ、手にて斫られざる隅石」。

其聖なる約^{すなわち}即^{ちか} 我が祖アウラアムに矢ひたる誓を記念せん、

救世主よ、預言者は爾十字架に釘せらるるを以て磐の裂くるを致しし者を山たる童貞女より斫り分けられたる石として預見せり。祈る、我無感覺の石に壓せらるる者を洪恩なる主として援け給へ。

謂ふ、我等に我が諸敵の手より救はれし後、懼れなく、彼の前に在りて、聖を以て、義を以て、生涯彼に事へしめんと。

我が靈よ、罪惡を齎し、神聖なる愛を楽しみ、凡の善なる思の爲に門を開き、節制と祈禱とを以て惡の爲に入門を閉ぢよ。

子よ、爾も至上者の預言者と称へられん、蓋主の面前に行きてその道を備へん、

爾の十字架を以て仇を定罪せし主宰、我が救世主よ、我定罪に當る者を救ひ給へ、慾に汚され、罪に昧まされたる我を「ゲエンナ」に定むる勿れ。

彼の民に、その救いは即ち諸罪の赦しにして、我が神の矜恤^{あわれみ}に因ることを知らしめん。

(生神女讃詞) ハリストスよ、爾が光榮を以て世界を審判する爲に來らん時、我を憐み、爾を生みし者の祈禱に由りて、我が惡の暗を解きて、我を爾の天の國を嗣ぐ者と爲し給へ。

イルモス、「イサイヤ祝へよ」。

此の矜恤^{あわれみ}に因りて、東旭^{あきひ}は上より我等に臨めり、

仁愛なる主よ、爾は一たび十字架に釘せられて復樂園を開き給へり。我は其中に喜びて生命を獲、不順に由る永遠の死を免る。故に爾を我が神として崇め讃む。

幽暗^{くらやみ}と死の蔭とに坐する者を照し、我等の足を平安の道に向はしめん為なり。

主よ、詛の器たる爾の生命を施す十字架は祝福の印記となりたり。爾を其上に見て、我等先に死せし者は生かされ、爾を歌ひて主宰として崇め讃む。

光榮は父と子と聖神に帰す

(聖三讃詞) 無原にして尊貴なる三者よ、我爾性の惟一なる神を歌頌す。生命の原因たる分離せざる惟一者、生れざる父、生れたる言及び子、聖なる神よ、爾を歌ふ我等を救ひ給へ。

今も何時も世々にアミン

(生神女讃詞) 神の母よ、爾の生産は智慧に超ゆ、蓋爾の胎孕は夫に由らず、産は童貞女の産なり、生れし者は神なればなり。我等彼を崇めて、爾童貞女を讃め揚ぐ。

我等の神よ、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す

尊き十字架、私の保固及び避所なる者よ、今の節制の時に我を照して楽しませ、我を潔めて誘惑より守れ、我が爾を讃榮して、主宰ハリストスを崇め讃めん爲なり。

[イルモス] イサイヤ祝へよ、童貞女は孕みて、子エムマヌイル、神及び人なる者

を生めり、其名は東、我等彼を崇めて、童貞女を讃め揚ぐ。

第9歌頌

イサイヤ、祝えよ、童貞女ははらみて
子イマヌイル 神と人となる者を 生めーり。
その名はひがし 我等は彼をあがめて、
童貞女を さいわいなりとす。 常に福へ

常に福にして (6調)

小連禱